

県外派遣報告書



一般社団法人
栃木県バスケットボール協会

様式1

提出日 令和 7年 12月 29日

派遣大会・事業名	第8回全日本社会人バスケットボール選手権大会関東ブロック予選
派遣期間	令和7年12月13(土)・14日(日)
報告者	松本祐大・倉持雄一・慶野芽以・横山良・森田倅平
派遣先	茨城県日立市

派遣スケジュール

12月13日	男女1・2回戦
12月14日	男女準決勝・決勝
月 日	

大会参加審判員(本部・指名審判員のみ記載)

本部審判員	—
指名審判員	—

審判会議 ミーティング内容(共通事項・強調された点など)

審判会議は実施していません。

県外派遣報告書



一般社団法人
栃木県バスケットボール協会

様式2

提出日 令和 7年 12月 29日

担当試合

試合日	12月13日(土)
回戦 カード 点数	男子1回戦 12:20開始 三菱UFJ銀行(東京) 89 — 76 Sea Monster(茨城)
会場	日立市池の川さくらアリーナ
審判員名	CC:松本祐大 U1:小山洋一(埼玉) U2:照屋祥紀(千葉)
審判員主任名	
試合振り返り	

PGCではメカニクスの確認(特にプライマリエリアとエッジへの対応について)とサイズで上回る三菱UFJ銀行に対して mismatchとなるケースへの対応の確認を行った。試合は序盤、三菱UFJ銀行が優位に試合を進めたが、Sea MonsterがDFを修正し、一定のリードで試合が進んだ。
1試合を通しクルーでプライマリエリアの判定を行い、エッジについてもPGCの通り、原則リードが判定を行った。インサイド(ペイント)についても序盤から整理をすることができたと考えている。
クルーのプライマリエリアでショットに対するオビアスなファウルがあり、セカンダリとしてコールをしたケースが2回(前後半1回ずつ、共にTからLに飛び込み)あった。インターバルでクルーと会話をした際には「被ってしまい見えなかったのが助かった」とコミュニケーションを取ったが、振り返るとコールのタイミングがやや早かった。ケイデンス・ホイッスルができなかったことは反省し、すぐに改善を行いたい。

担当試合

試合日	12月13日(土)
回戦 カード 点数	男子2回戦 17:20開始 ROYALS(群馬) 73 — 77 VS 日立大みか(茨城)
会場	日立市池の川さくらアリーナ
審判員名	CC:松本祐大 U1:村上翔(埼玉) U2:長沢弘基(群馬)
審判員主任名	
試合振り返り	

各チーム第1試合の特徴や様子を基にPGCを行い、インサイドのマッチアップとアウトサイドのFULについて整理していくよう、クルーで共有し試合に臨んだ。勝者が全国出場を決めることもあり、序盤からタフなゲームとなった。アウトサイド、インサイド共にバランス良く攻める日立大みかに対し、ROYALSが3ポイントで対抗し、終始拮抗した展開となった。
試合の中でプロテクトシューターをコールし、フェイクも入れることにより試合が進むにつれてクリーンになり、クルーで協力してゲームを終わらせることができたと考えている。全体を振り返り、リバウンド後のショットについてコールをするべきケースがあったと反省した。

全体の感想 提言 参加者から学んだこと栃木県内審判員へ伝えたいこと

<p>今大会では、2日間で男子3試合(うち2試合はCC)のタフなゲームを担当させていただきました。クルーと協力し、スムーズに試合を運営することを目標に臨みました。 初日はCCとしてクルーと協力したタフな試合を運営し終えることができた点は良かったと考えております。また、社会人のゲームで感情が入る部分についても選手の思いや意図を感じることができるよう意識し取り組みました。笛に表したり、コミュニケーションを行ったりと試行錯誤しチャレンジをいたしました。 2日目はS級の方とクルーを組ませていただき、S級としての対応(特に外国籍HCに対して)や立ち振る舞いを肌で感じることができました。 自身の判定について体現できた部分もあったものの、状況に適したより精度の高い判定が必要な部分を更に求めていく必要があると感じました。決勝戦で担当したLEOVISTA KASHIWAのHCは外国籍で通訳を介してコミュニケーションを行い、公式戦では自身として初めての経験となりました。 2年後には本県開催となることから、運営面の視察もさせていただきました。インフルエンザの流行により直前での割当変更もあり、状況に応じ臨機応変な対応ができるよう準備しておく必要があると感じました。 事前準備よりお世話になりました一色審判長はじめ開催県茨城県の皆様、派遣審判員の皆様、派遣に際しご配慮をいただきました梶審判長はじめ栃木県の皆様に御礼を申し上げます。</p>

県外派遣報告書



一般社団法人
栃木県バスケットボール協会

様式2

提出日 令和 7年 12月 29日

担当試合

試合日	12月14日(日)
回戦 カード 点数	男子決勝 15:00開始 LEOVISTA KASHIWA(千葉) 101 - 84 日立大みか(茨城)
会場	日立市池の川さくらアリーナ
審判員名	CC:菊池瑞昭(茨城) U1:石崎公一(群馬) U2:松本祐大
審判員主任名	
試合振り返り	
<p>PGCではメカニクス(特にプライマリエリアとインサイドを考慮したローテーションのタイミング)と各チームの特徴を確認し試合に臨んだ。序盤よりLEOVISTA KASHIWAがハードなディフェンスから速攻を出し、サイズで優る日立大みかはインサイドやアウトサイドのシュートで対抗した。ハイペースな展開で試合が進み、終盤まで走り切ったLEOVISTA KASHIWAが勝利を収めた。</p> <p>PGCの通り、クルーでプライマリエリアの判定を行い、ローテーションもスムーズに行えたと考えている。自身の判定について前半にオフボールのファウルをコールしたが吹き急いってしまったと反省している。RSBQを考慮しノーコールにすべきであった。後半トランジションの際にLでUF(C4)のコールを行った。クルー(C)もコールしていた為に互いにホールド素早く寄り、UFとできたことは良いクルーワークだったと考えたい。</p>	

担当試合

試合日	
回戦 カード 点数	
会場	
審判員名	
審判員主任名	
試合振り返り	

全体の感想 提言 参加者から学んだこと栃木県内審判員へ伝えたいこと

県外派遣報告書



一般社団法人
栃木県バスケットボール協会

様式2

提出日 令和 7年 12月 29日

担当試合

試合日	12月13日(土)
回戦 カード 点数	女子1回戦 9:00開始 QUEEN BEE(神奈川) 81 - 47 challenger(茨城)
会場	日立市池の川さくらアリーナ
審判員名	CC:慶野芽以 U1:村上翔(埼玉) U2:大野紗佳(埼玉)
審判員主任名	
試合振り返り	

ゲームの序盤から、OF・DFともに手の使い方や体の寄せ方について、悪いものを各プライマリで丁寧に取り上げることができた。その影響もあり、試合全体としてはイリーガルな現象は多くなく、スムーズに進めていくことができた。一方で、試合終盤の時間帯では控えの選手の出場時間が増えてDFのラフなプレーが多くなり、プレーの質が変わったタイミングがあった。その際に、CCとして改めて存在感を出せたらより良かった。「相手の目の前だから」と自分が飛び込むことを控えてしまったケースもあったが、自分のプライマリに関わらず、試合として必要な笛についてはCCとして判定していく必要があった(ボールがルーズになった際のDFの詰め方・ターンオーバーの際のオフボールのDFのボディコンタクトなど)。

担当試合

試合日	
回戦 カード 点数	
会場	
審判員名	
審判員主任名	
試合振り返り	

全体の感想 提言 参加者から学んだこと栃木県内審判員へ伝えたいこと

初めての関東社会人大会への派遣でした。社会人の試合を吹くことは大変貴重な経験であり、学生の試合とは違った学びも多く、大変勉強になりました。

私自身、普段関わるほとんどのゲームが中学生や高校生など学生の試合です。相手が子どものため審判の言うことを素直に受け入れてくれるケースが多いですが、社会人のゲームはそれとは違った意味で様々なコミュニケーションが求められます。

どのカテゴリーの試合でも大切なことですが、いかに自分がプレーを確認できるポジションを追求できるか、また、その中でプレーを正しく判定できるか、その精度を高める必要性を改めて感じる機会となりました。試合中の一つ一つのプレーにはそれぞれチーム(選手)としての思いがあり、それに判定を下していくという審判としての責任を決して忘れることなく今後も励みたいです。

また、私自身の課題として、「プライマリを超えた判定」があります。もちろん、一番の理想はクルー全員が自分のプライマリをしっかり判定し続けることですが、プライマリ外でも、「自分が一番判定しやすい・確認ができた」というプレーに対してより決断力をもって判定に繋がられるように努めたいと思います。

今回の派遣に際しまして、梶審判長をはじめ、県内の審判員の皆様には多くのご配慮をいただきましてありがとうございました。今後も様々なカテゴリーのゲームにしっかりと向き合い、多くの方々との関わりの中で自身の審判スキルはもちろん、人間性の向上にも努めていきたいと思っています。

県外派遣報告書



一般社団法人
栃木県バスケットボール協会

様式2

提出日 令和 7年 12月 29日

担当試合

試合日	12月13日(土)
回戦 カード 点数	男子1回戦 12:20開始 柏葉クラブ(東京) 58 - 105 LEOVISTA KASHIWA(千葉)
会場	池の川さくらアリーナ
審判員名	CC:倉持雄一 U1:小神野拓海(茨城) U2:江崎康紀(茨城)
審判員主任名	
試合振り返り	

関東大会において初めてCCとして試合を担当させていただき、自分のプライマリアreaを守りつつ、試合全体を把握しながら進行していくことを意識して取り組んだ。序盤から、クレーがプライマリアreaでの判定をし、それぞれが安定した気持ちで試合を進めていたが、途中、プライマリアreaのトレイルレフェリーがコールせず、リードの私がショットファウルをセカンダリとして笛を入れるケースがあった。
吹いた直後、ディフェンス側のチームからは不満の声が挙がった。ファウルをコールされたプレーヤーに声をかけに行くと、「笛が遅い」と言われた。「笛は遅かったが、ファウルでしたよ」と伝えた。そのプレーヤーは「わかった」と返答した。笛のタイミングや見せ方などをより工夫し、プレーヤーに伝わりやすいプレゼンテーションが必要であると考えた。

担当試合

試合日	12月14日(日)
回戦 カード 点数	男子準決勝 11:10開始 GREAT DIPPERS(栃木) 69 - 104 日立大みか(茨城)
会場	日立市池の川さくらアリーナ
審判員名	CC:一色涉(茨城) U1:佐田幸一(山梨) U2:倉持雄一
審判員主任名	
試合振り返り	

準決勝では、中盤まで点差が拮抗する試合展開となった。バイオレーションやファウルの判定をし続けてはいたが、ドライブに対して、リードでのポジションの位置とアングルが適切ではなく、判定をすることができなかったケースがあった。
試合後、映像での振り返りにより、リードがルーズし過ぎてしまい、プレーを捉えることができていなかったことに気付いた。リードのポジションやアングル確保は課題であるため、同じようなプレーが起きそうな時や起きた時に位置を変えてみる試みをしようと思う。プレーに対する予測した動きができるよう、引き続き意識して取り組みたいと考えた。

全体の感想 提言 参加者から学んだこと栃木県内審判員へ伝えたいこと

関東社会人大会に派遣させていただき、A級に昇格し初めてのCCとして担当させていただきました。非常に緊張しましたが、ゲームコントロールを意識して取り組んだり、クレーの方と協力してゲームを進めたりしました。
大人の試合では、ボール以外での判定が多くなり、一試合を通して判定し続ける必要があったため、ポジション取りやアングル確保、プレーを長く見続けることに挑戦しました。判定を受け入れてくれることもありましたが、受け入れてもらえない事象には、プレーヤーに声をかけ、プレーヤー側の意見を聞き、新たな視点を踏まえた判定をしてみようと思う。
今回の派遣に際し、お世話になった茨城県審判委員会の皆様、開催県の茨城県バスケットボール協会の皆様、梶審判長をはじめ、県内の審判員の皆様には多くのご配慮をいただきましてありがとうございました。

県外派遣報告書



一般社団法人
栃木県バスケットボール協会

様式2

提出日 令和 7年 12月 29日

担当試合

試合日	2025年12月13日(土)
回戦 カード 点数	男子2回戦 17:20開始 三菱UFJ銀行(東京) 75 - 91 LEOVISTA KASHIWA(千葉)
会場	日立市池の川さくらアリーナ
審判員名	CC:石崎公一(群馬) U1:根本優(茨城) U2:横山良
審判員主任名	
試合振り返り	

プレゲーム・カンファレンスでは、①ゲームへの影響を見極め、展開にマッチした笛を入れること、②意図を持ってファウルをしにいったプレーについては、必ずコールすること、③日本人選手と外国籍選手のマッチアップでは、特に守り方に注意を払うこと、④ベンチコントロールを含め、継続的なコミュニケーションを取ること、以上4点をクルー内で確認し、共通認識として試合に臨みました。

実際のゲームは、両チームとも手の使い方が悪く、ファウルが多発する展開となりましたが、1試合を通して一貫してコールし続け、あわせてプレーヤー・ベンチ双方とコミュニケーションを取り続けました。その結果、試合が荒れた方向に進むことなく、プレーヤーがゲームそのものに集中できる環境を作ることができたと考えています。

一方で、自身のプライマリエリアで発生したリバウンド時のファウルや、ポストでのポジション争いにおけるファウルについて、違和感を覚えながらも笛で表現できなかった場面があり、反省点として残りました。

結果としてクルーがコールしたことから、自身の違和感は正しいものであったと前向きに捉えつつ、ファウルをコールするために必要な情報を、いかに早く、正確に捉え、判定に向けた準備を整えるかという点が、今後の大きな課題であると認識しています。

全体の感想 提言 参加者から学んだこと栃木県内審判員へ伝えたいこと

激戦区である千葉県を勝ち抜きSB2参入を目指すチームと、SB2に所属していたチームが全国大会出場を懸けて対戦するという、非常にハイレベルなゲームへの割り当てをいただけたことに、まず感謝申し上げます。

今回の関東社会人大会を通じて強く感じたのは、このレベルのゲームを適切にコントロールできることがA級審判員には求められており、その要求水準と自身の現在地を比較すると、まだまだ不足している部分が多いという現実です。

単に「当たった」「触れた」という事実だけで笛を入れると、プレーヤーにとっては納得感のない判定となりやすく、かといって笛を入れなければ、プレーがエスカレートし、粗暴な争いへ発展する危険性もあります。特に社会人カテゴリーにおいては、プレーそのものだけでなく、試合中の感情の変化をいかに早く察知し、それを判定やゲームコントロールに反映させていくかが、試合を収めるために不可欠な技術であると学びました。

また、社会人のゲームでは、吹いた／吹かなかったに関わらず、判定に対して説明を求められる場面が、他のカテゴリーと比べて多いと感じました。そのため、競技規則に基づいた判定であることを前提に、プレーヤーが理解しやすい言葉で根拠を伝え、納得を得ながら試合をリードしていくコミュニケーション力が、コート上での信頼構築において極めて重要な要素であると再認識しました。

今後は、競技規則やオフィシャルズ・マニュアルへの理解を一層深めるとともに、「その場に自分が立っていたら、どのように対処するか」という視点で試合を見る機会を増やします。あわせて、上級審判員が何に着目し、どのように情報を収集・整理して判定に結びつけているのかといった、マニュアルには記載されていない実践的なノウハウの習得にも努めていきます。

今回の派遣に際し、お世話になった茨城県審判委員会の皆様、開催県の茨城県バスケットボール協会の皆様、梶審判長をはじめ、県内の審判員の皆様には多くのご配慮をいただきましてありがとうございました。

県外派遣報告書



一般社団法人
栃木県バスケットボール協会

様式2

提出日 令和 7年 12月 29日

担当試合

試合日	2025年12月13日(土)
回戦 カード 点数	東海クラブ(茨城1位) 93 - 75 ブルーインズレッツ(埼玉2位)
会場	日立市池の川さくらアリーナ Aコート
審判員名	CC: 稲田翔人(東京) U1: 佐藤拓哉(千葉) U2: 森田倭平
審判員主任名	
試合振り返り	

プレゲーム・カンファレンスでは、① フリースローシューターのバイオレーションや明らかなトラベリングなど丁寧にコールしていくこと② テンポセット、特に手を使ったディフェンスはコールして選手に伝えていく③ プライマリのレフェリーがコールしていきたいが、オープンアングルで見えていたものに対しては積極的にコールしていく。④ クルー間でコミュニケーションをとり疑問はなくす。

以上4点をクルー内で確認し、共通認識として試合に臨みました。

実際のゲームは3年連続準優勝の東海クラブが終始リードするワンサイドゲームとなりました。

内容としては、両チームとも手の使い方が悪かったですが、1Q、メンバー交代したときなど、テンポセットすることができて、ナチュラルインターバルが続いたと考えております。インターバル中にはクルー間で積極的にコミュニケーションを取ることで疑問点もなくゲームを進めることができました。

個人的な反省としては、オープンアングルで見えていたものに笛を入れられなかった場面や、私がLの際、リバウンドしたボールを取りに行く手のファールを取り上げましたが、アングルのCからの方が見えやすく、判定をCに預けてもよかった場面がありました。まずは、自らのプライマリを判定し続けることはもちろんのこと、次のステップを見据え、オープンアングル、見えたものに対して、笛で表現できるよう、決断力、判定力をつけるため映像での振り返り、実際のゲームでのチャレンジをしていきます。

全体の感想 提言 参加者から学んだこと栃木県内審判員へ伝えたいこと

初めて関東社会人に参加させていただいたこと、3年連続準優勝の東海クラブのゲームを担当させていただいたことに感謝申し上げます。

今回の関東社会人大会を通じて感じたのは、普段担当する中学生や高校生とは違い、社会人レベルのゲームはチームがやりたいこと選手が感じていることを私達レフェリーも感じて、適切にゲームコントロールできることが次のステップへ必要なことだということです。明らかなバイオレーションやオビアスなファールをコールすることは当たり前ですが、ゲームとしてどこにファールの基準を設けることが大切だと感じました。それらを笛として表現し選手に示していくことで、どのようなゲームにしたいのかをこちらから示すことがゲーム全体にまとまりができることになることを学びました。

また、社会人のゲームでは、技術としてファールテイクしたり、判定について説明(会話)を求められる場面があるので、ゲームの流れを感じることで、根拠を持って判定することが重要になると感じました。コミュニケーションの際には、端的にプレイヤーに伝えられるようにすることも、レフェリーの技術として必要であると感じました。競技規則やオフィシャルズ・マニュアルへの理解を一層深め、判定力を向上することはもちろんのこと、選手とのコミュニケーションの取り方なども技術として習得できるよう、事前準備ならびに実践でチャレンジできるよう努めていきます。